



関東森林学会ニュースレター

関東森林学会事務局

第 12 回関東森林学会大会のご案内

昨今の状況を踏まえて、担当理事および幹事会で検討を重ねた結果、本年は総会と特別講演を会場およびZoom、研究発表をオンライン開催として進めて行くことになりました。参加・発表の形態については、昨年度と同様の方法で催行することとします。

主催 関東森林学会

共催 東京都、日本森林技術協会、日本森林学会

開催日 令和4年(2022)年10月25日(火)

開催場所 総会および特別講演は、東京都農林総合研究センター講堂およびZoomによる視聴
学会発表は、昨年同様リモート開催となります。

実施内容

幹事会 10月18日(火)にZoomにて開催

学会発表 10月24日(月)9:00より登録ファイルをWEBで公開

総会 10月25日(火)13:15～13:45に会場およびZoomにて開催

特別講演 10月25日(火)14:00より会場およびZoomにて配信

総会および特別講演の接続先

<https://zoom.us/j/95495516675?pwd=UzRvcIA2NUZMeTBMcURkRk9FdFVWUT09>

ミーティング ID: 954 9551 6675

パスコード: 698203

学会発表、総会における質疑は全て学会ページ内での書き込みにより対応することとします。方法について、それぞれの項目をご参照下さい。

□ 特別講演

10月25日(火)14:00～15:00に会場およびZoomにて行います。

演題：森林・林業・山村のサービス産業化

演者：東京農業大学名誉教授 宮林茂幸

開催場所である東京都農林総合研究センター講堂の会場での視聴をご希望の方は、コロナ禍であるため、先着50名とさせていただきます。事前に k-arai@tdfaff.com まで、件名は「特別講演会場参加希望」、本文に「所属、氏名」を記載してお送りください。

Zoomによる配信を希望される方は、以下で接続して下さい。

<https://zoom.us/j/95495516675?pwd=UzRvcIA2NUZMeTBMcURkRk9FdFVWUT09>

ミーティング ID: 954 9551 6675
パスコード: 698203

□ 総会

総会は 10 月 25 日(火)13:15～13:45 に会場および Zoom にて行います。URL は以下です。

<https://zoom.us/j/95495516675?pwd=UzRvclA2NUZMeTBMcURkRk9FdFVWUT09>

ミーティング ID: 954 9551 6675

パスコード: 698203

挨拶、表彰、議事(質問やコメントに対する回答方式)、その他の順番で行います。10 月 18 日(火)の幹事会開催後に総会資料を大会ページ上にアップします。質問、コメントがありましたら 10 月 23 日(日)までに事務局(satota@nodai.ac.jp)までお送りください。

□ 発表方法

本年は以下の二通りの方法で発表内容をファイルにして事前に提出して頂くこととします。

- 1) 音声付きスライドショー(動画ファイル、ムービーに加工したもの)

ファイル形式はmp4

- 2) 発表スライドに説明テキストを挿入して PDF ファイルに変換したもの

ファイル形式は PDF

※ファイル作成方法に関するガイドは学会ホームページをご参照下さい

提出はどちらの形式を選んで頂いても構いません。使用しているサーバーの容量の関係で、ファイルサイズを 1)mp4 形式場合は最大 150MB、2)PDF 形式の場合は最大 15MB 以下に制限させて頂きます。mp4 形式の場合は、録音時間について 12 分以内(厳守)して下さい。また、ファイル管理上の仕様で、上記のmp4 形式か PDF 形式以外のファイルは提出できない点にご注意下さい。mp4 動画ファイルは、原則として大会ホームページでの公開になります、10 月 25 日(火)のみ YouTube でも限定公開します。PDF 版ファイルの場合は、ファイルサイズ(15MB 以下)以外スライド枚数等の制限は設けません。レイアウトも自由に作って頂いて構いません。発表内容のダウンロード、コピーは禁止とします。

発表ファイルの提出は大会ページ上のアップロードボタンから作業して頂きます。ファイルは最初の提出以降、再提出する度に上書きされて行く仕様ですので、何回でも更新できます。ただし、最終更新の期日は **10 月 18 日(火)23:59** とします。mp4 動画ファイルの YouTube へのアップロードは大会事務局で行いますので、特段の操作は必要ありません。なお、不切日以降で、特段の事情により修正が必要な場合は大会事務局か学会事務局にお問い合わせ下さい。

発表用に提出されたファイルおよび視聴用サーバーにアップロードされたファイルはいずれも視聴期間が終了次第、速やかに削除され、大会事務局でも保存は致しません。

□ 発表視聴方法

発表ファイルは大会開催当日以降、大会ページからログインして頂き視聴して頂けます。各発表ファイルは原則として 10 月 24 日(月)9:00 から 10 月 27 日(木)17:00 までアクセスできるように設定されます。10 月 27 日(木)17:00 時点でファイルはサーバー上から削除され、以降閲覧できなくなります。

音声付きスライドショーは、原則として大会ホームページでの公開になります、10月25日(火)のみ YouTube でも限定公開され(通常検索ではヒットしません)、課題ごとの該当アドレスにアクセスする形で視聴して頂く方法を採用します。公開先アドレスは大会ページに発表課題ごとに記載されます。発表スライド PDF 版は大会ページに発表課題ごとに格納され閲覧できるようにします。

□ 質疑応答方法

大会ページには各発表課題の一覧が作成されますが、こちらから各発表課題を選んで頂くとコメント記入欄がありますので、記入ボタンを押して質問・コメントを記入して頂けます。記入コメントは古い順に一覧になって並びますので、順に閲覧して下さい。発表者が回答する際には、コメント入力状態で、「発表者ですか」欄にチェックを入れて頂くと、コメントが赤字表記となり識別しやすくなる仕様になっていますので、ご活用下さい。

大会当日の10月25日(火)15:00から16:00はコアタイムとして発表者の方は極力コメントに対してリアルタイムでの回答対応をお願い致します。

コメント等の記入は10月25日(火)9:00から10月27日(木)17:00まで記入できるように設定されます。発表者の方は27日17:00以降に最終確認をして頂き、必要な回答等をご記入下さい。コメントの閲覧は11月1日(火)17:00までアクセス可能とします。

□ 発表論文のアップロード

1) 音声付きスライドショー(動画ファイル、ムービーに加工したもの)

カメラ等で撮影された動画を利用しても構いませんが、一番簡便なのはパワーポイントでスライドショーを作成し、そのファイルに説明音声を録音し、最後に動画ファイル(MP4形式)に出力する方法です。

手順は以下の通り

- ① 発表スライドをパワーポイントで作成する、念のためこの状態で保存する
- ② 「スライドショータブ」の「スライドショーの記録」を選択すると、スライドが中央に配置され、左上に赤丸の記録ボタンが登場する。右下のビデオカメラマークに斜線が入っていることを確認する(斜線がないと、カメラがあるノートPCなどでは自分の映像が画面右下に挿入されます)
- ③ 準備が整ったら、録画の赤ボタンを押す
- ④ カウントダウン後録音が始まるので、それぞれのスライド絵の説明内容を録音する
- ⑤ →ボタンを押して次のスライドに移動し、説明内容をお録音する
- ⑥ 順次スライドごとに録音していき、最後に説明が完了したら、左上の停止ボタンを押す
- ⑦ 下のスライド枚数表示と経過時間表示を確認する
- ⑧ 再生ボタンで内容を確認できる
- ⑨ 良ければ、ESC ボタンで初期画面に戻る
- ⑩ 「スライドショー」最初からで録音内容と時間繰りが確認できる
- ⑪ 問題が無ければ、「ファイル」タブから「エクスポート」を選択し、ビデオの作成をクリックし、画面サイズを「標準 480P」にプルダウンで変更、またその下段の選択が「記録されたタイミングとナレーションを使用する」のままであることを確認し、下の「ビデオの作成」ボタンを押す
- ⑫ 出力ファイル名を聞いてくるので、保存場所を確認し、ファイル名を入力する。ファイルの種類がMPEG-4ビデオであることを確認し、保存する

以上で完了です。大会ページにアップロードするファイルサイズの上限が 150MB ですので、エクスポートするにはご注意ください。

2) 発表スライドに説明テキストを挿入して PDF に変換したもの

普通にパワーポイントなどで作成したスライドを PDF に変換したものです。基本的にはノート付きスライドを推奨します。スライドごとの説明内容はパワーポイント上でノートを表示できるようにして、下段のノートペインに書き込んで頂く方法です。ファイルはエクスポートから PDF/XPS を選択して、保存する際にオプションで発行対象をスライドからノートに変更して保存すれば、コメント付きの状態で PDF ファイルに変換できます。ただし、わかりやすいレイアウトにできるのなら、上記のノート付きの形式に限定はしません。重要な点は PDF 形式以外(例えばワードやパワーポイント)では提出できないことです。

□ 「関東森林研究」第 74 巻への投稿論文原稿の募集

関東森林研究は原則として大会において発表された論文を対象に編集します(編集委員会運営規則第3条)。第 12 回関東森林学会大会で研究発表される方は、発表内容を論文または速報として投稿することができます。投稿を希望される方は、投稿原稿等の必要書類を大会ページから電子投稿してください。投稿原稿の提出期限は 11 月 15 日(火)とします。

(1) 原稿の電子投稿

提出物:

①論文原稿:電子ファイル 1 部(PDF) または 速報原稿:電子ファイル 1 部(PDF)

②英文原稿の場合、英文校閲済の証明書

提出先:<http://www.kantoforest.jp/>

投稿に関する問い合わせ:

宇都宮大学農学部森林科学科

関東森林学会 編集委員会(逢沢峰昭)

TEL:028-649-5531 FAX:028-649-5545

E-mail: aizawam@cc.utsunomiya-u.ac.jp

(2) 原稿作成上の注意

今年度より原稿の体裁を中心に、執筆要領および原稿テンプレートを大きく改訂しました。原稿作成に際しては、関東森林学会ホームページ(<http://www.kantoforest.jp/>)の投稿規定および最新の執筆要領にしたがい、提出前に最新の投稿チェック表で十分に確認した上で提出して下さい。投稿連絡表の提出は不要です。投稿者情報を Web 上に記入してください。審査は「関東森林研究」投稿原稿審査要領にしたがって行います。投稿規定、執筆要領を満たしていない原稿は受け付けませんのでご注意ください。また、原稿作成においては上記ホームページ上に掲載している、最新の原稿テンプレート(第 74 巻用)を必ず使用してください。ご協力のほどよろしくお願いします。

(3) 原稿審査

投稿規定、執筆要領を満たしていることが確認された原稿について投稿を受付け、担当の審査員を決定して審査を開始します。審査の結果、修正を要すると判断された場合は、著者に修正稿の提出を求めます。提出期限までに修正稿が提出されない場合は、投稿を取り下げたものとみなします。なお、第 74 巻は 2023 年 3 月末に第 1 号、7 月末に第 2 号を印刷発行する予定です。

□ 大会プログラム

分野	発表題名と所属
林政	
林政1	「盛岡木材流通センター」の広葉樹丸太の市売価格の分析 道中哲也(森林総研)・大塚生美(森林総研東北)・小谷英司(森林総研)
林政2	高等学校の森林・林業科目設置校での専門科目の開設状況－オンライン調査をもとにした全国の傾向分析 井上真理子(森林総研多摩)・三浦万由子(日大)
林政3	長野県長野市におけるジビエの利用促進による農林業被害と地域活性への影響 茂木もも子(東京農大)・稲垣里葉子(元筑波大)・立花敏(筑波大)
林政4	群馬県における木炭統制政策に関する資料の分析 土屋智樹・関岡東生(東京農大)
林政5	静岡県民有林(人工林)の形成過程と森林・林業施策の変遷 辻井寛(静岡県志榛農林)・土屋智樹(東京農大院)・関岡東生(東京農大)
林政6	An overview of briquettes production to enhance forest biomass recovery and efficient utilization from roundwood-producing forests in Tanzania Christian Paul Kolonel, Satoshi Yoshino, Takayoshi Sato(Tokyo University of Agriculture)
林政7	森林環境譲与税の活用実態と地域別の特徴分析－私有林人工林面積が1000ha以下の地域を対象に－ 石佳凡(早稲田大)・納富信(早稲田大)
風致	
風致1	関東地方の博物館施設における森林関連展示の実態 三浦万由子(日大院)・杉浦克明(日大)
風致2	長崎県対馬市湊地区における戦後の木庭作地の変遷 園原和夏・鈴木颯太・關正貴・杉浦克明(日大)
風致3	林業普及指導員の資格試験の内容から見る森林科学分野に求められている知識 水井英菜(日大院)・杉浦克明(日大)
風致4	東京都立普通科高等学校に通う生徒の森林・林業への認識 杉浦克明(日大)・久野巧(日大)
風致5	国内で実施されている森林環境教育プログラム内容の傾向 西連寺麻友(日大)・杉浦克明(日大)
経営	
経営1	レーザースキャンによる森林調査 藤澤将志(関東森林管理局)・小松玄季(林野庁)
経営2	関東中部地域のスギ・ヒノキ・カラマツ人工林固定試験地における林分枯損量の発生状況 西園朋広・細田和男(森林総研)・福本桂子(森林総研四国)・山田祐亮・鄭峻介・北原文章・高橋正義・志水克人・小谷英司・齋藤英樹(森林総研)
経営3	林業経営におけるAHP分析の検討－学生へのアンケート調査を事例として－ 齋藤州生・鈴木崇元・佐藤孝吉(東京農大)
経営4	東京農業大学奥多摩演習林における間伐材のログベンチ利用 佐藤孝吉(東京農大)
経営5	体験イベントによる林地残材の有効活用－東京農業大学奥多摩演習林の間伐地を事例として－ 富井大雅・中村仁大・佐藤孝吉(東京農大)
造林	
造林1	地域病院所有の広葉樹二次林を保健休養目的に整備した事例 上原蔵(東京農大)
造林2	マレーシアにおける植栽後20年以上経過したフタバガキ科樹木の成長特性 田中憲蔵(国際農林水産研究セ)・大谷達也・星野大介(森林総研)・Nur Hajar Zamah Shari(FRIM)
造林3	高齢複層林における植栽木の成長経過 宮本和樹(森林総研)・米田令仁・福本桂子(森林総研四国)・櫃間岳(森林総研)
造林4	新しい林業の実現に向けたテーダマツ等の可能性 松田泰至(関東森林管理局)・山田晋也・福田拓実(静岡県農技研)
造林5	タチヤナギとイヌコリヤナギの成長に対する堆肥の効果 香山雅純(森林総研)・菊地賢(森林総研北海道)・上村章(森林総研)・高橋正義(森林総研)

造林6	ブナ苗木の被陰処理と根揚げによる成長抑制効果 伊藤幸介・塚原雅美(新潟県森林研)
造林7	Species occurrence, regeneration and relevance of herbaceous plants on selected street lanes and public parks of Setagaya city Kibalama Marvin Bogere, Iwao Uehara(Tokyo University of Agriculture)
造林8	茨城県におけるスギ新植地の競合植生の下刈り停止後の成長 五十嵐哲也(森林総研)・倉本恵生(森林総研)・奥田史郎(森林総研)
造林9	スギ植栽試験地における毎木調査データを基にした林齢4年生の成長期終了時点の樹高の予測 清水達哉・塚原雅美・佐藤渉(新潟県森林研)
造林10	都市近郊森林公園における外生菌根性子実体の発生傾向 田中恵(東京農大)・白川誠(東大)
造林11	植栽地における苗木の樹高成長と気象要素の関係 壁谷大介(森林総研)・齋藤隆実(森林総研)
造林12	スギコンテナ苗の成長に及ぼす植栽時のグルタチオン施用の影響 飛田博順・奥田史郎・原山尚徳・上村章(森林総研)・小川健一(岡山生物研)
造林13	スギコンテナ苗に与える接触刺激および風刺激の徒長抑制効果 阿部森也(茨城県林技セ)
育種	
育種1	スギ実生コンテナ苗の成長と積算気温の関係 大平峰子・山野邊太郎・木村恵・高橋誠(森林総研林育セ)
育種2	千葉県におけるヒノキの個体別雄花着生状況と雄花生産量の関係 福島成樹(千葉県農林総研森林)
育種3	カメムシ防除袋の仕様がスギ採種木の夏季の枝温度に与える影響 室紀行(埼玉県寄居林森林研)
育種4	深層学習を用いた花粉の発芽検定の効率化の検討 武津英太郎・長谷部辰高(森林総研林育セ)・花岡創(森林総研林育セ北海道)
育種5	薬用のつる性木本植物カギカズラの組織培養によるクローン化とクローン苗の植栽 谷口亨・小長谷賢一(森林総研森林バイオ)・山口秀太郎(森林総研林育種セ四国増殖保存園)
生理	
生理1	土壌乾燥ストレスによるスギ苗木のpoint of no return(回帰不能点)について 才木真太郎・原山尚徳(森林総研)・小笠真由美(森林総研関西)・香山雅純・上村章・飛田博順(森林総研)
生態	
生態1	カタクリ再生試験における開花と葉面積の変化について 菊池敏男・仲田昭一(関東森林管理局)
生態2	皆伐更新地における草本の開花を空間的不均一性からみる 赤尾智宏・倉本宣(明治大)
生態3	モンゴル・ウランバートル周辺における1960年代と2020年代の森林分布範囲の比較 鈴木康平(筑波大)・小長谷有紀(国立民族学博物館)・渡邊三津子(文教大)・上條隆志(筑波大)・山中典和(鳥取大)
生態4	松枯れ後のアカマツ二次林を構成する広葉樹へのニホンジカの影響 長池卓男(山梨県森林研)
生態5	亜熱帯樹木群集における葉形質の乾燥応答：種の置き換わりと種内変異に着目して 河合清定・田中憲蔵(国際農研)・漢那賢作(沖縄県森林資源研究センター)・石田厚(京大大学生態学研究センター)
立地	
立地1	初期沈着量の異なる栃木県内3地域におけるコナラ樹上枝葉からの樹幹・落葉の放射性セシウム濃度推定 濱上百々・大久保達弘・逢沢峰昭・飯塚和也(宇都宮大)
立地2	カラー化した多時期の空中写真及び衛星画像を用いた多摩川源流域における土地被覆変遷の把握 下嶋聖(東京農大)・橘隆一(東京農大)
防災	
防災1	どのような時の流出量が森林の衰退によって増加するのか？ 玉井幸治(森林総研)
防災2	不透過型堰堤の堆砂敷における流木の停止過程 鈴木拓郎・経隆悠・浅野志穂(森林総研)
防災3	群馬県下の市町村における土砂災害ハザードマップの比較考察 本田尚正・富井直樹(東京農大)

防災4	斜面安定解析における側根効果の検討事例 岡田康彦(森林総研)・蔡飛(群馬大学)・黒川潮(森林総研九州)
防災5	みなかみ演習林における流域源頭部湧水の水質分布 瀧澤英紀・市川剛大・小坂泉(日大)
防災6	多雪森林流域における隣接する2つの流域の溶存物質の流出特性 稲山賢信・菅谷馨・水野一平・吉澤大地・小坂泉・瀧澤英紀(日大)
防災7	釜淵森林理水試験地における降水・河川水の酸素・水素安定同位体比の特徴 久保田多余子(森林総研)・阿部俊夫(森林総研東北)・小川泰浩・伊藤優子(森林総研)・野口享太郎・延廣竜彦(森林総研東北)・釣田竜也(農林水産技術会議)
防災8	アトウェルンタ地区における森林斜面の傾斜量モニタリング 浅野志穂(森林総研)・大塚雅之((株)オアシ・テクノス)・森田昇吾(国土防災技術(株))・Sanchitha Jayakody(京都市) 大)・Suranga Dissanayaka・Ranjan Weerasinghe・Lahiru Sankapala(NBRO)
防災9	太平洋側の温暖な低地に生育するブナの光合成速度および蒸散速度－2021年と2022年のデータ比較－ 片桐花音・小坂泉・梁瀬裕生・杉本奏音・北山航・吉田達矢・瀧澤英紀・阿部和時(日大)
防災10	ブナが優占する冷温帯落葉広葉樹林における土壌呼吸と幹呼吸の測定 中島功裕・小坂泉・小澤和之真・佐藤海渡・野村雪乃・保木本竜生・瀧澤英紀・阿部和時(日大)
利用	
利用1	労働投入量を制約条件とした持続的な地域林業循環モデルにおける未利用森林バイオマス資源の発生量 吉岡拓如・金子竣亮・金鉉倍・仁多見俊夫(東大)
利用2	宇都宮市民有林におけるUAV-SfMによる立木計測の精度と作業効率の分析 田口聡一郎・齋藤太輝・有賀一広(宇都宮大)
利用3	群馬県西部における確率年を用いた降雨評価による過去19年間の林道災害分析 渡部逸晴・小林諒・有賀一広(宇都宮大)
利用4	北海道におけるセミトレーラと欧州型CTL導入を考慮した未利用材利用可能量推計 藤井絢弓・武田愛子・長沢翔太・松岡佑典・有賀一広(宇都宮大)・斎藤仁志(岩手大)・酒井明香(北海道立総研)・白澤紘明(森林総研)・鈴木保志(高知大)
利用5	車両系作業機械の上部旋回体の画像による測定法 田中良明・上村巧(森林総研)
利用6	作業道の簡易排水を用途とする粗朶のCTスキャンによる空隙計測 山口智・小川泰浩・田中良明・鈴木秀典(森林総研)
利用7	作業道端での枝条の収穫作業の生産性を最適化させる積み上げ幅 黒田浩太郎・金鉉倍・吉岡拓如(東大)
利用8	UAV-SfMによる3Dモデルと基盤地図情報を用いた林内路網計画の可能性 亀山翔平・矢部和弘(東京農大)
利用9	立木に生じる振動の多点同時計測システムの開発 松本武(農工大)
動物	
動物1	マテバシイにおけるNCSくん蒸薬剤のカシノナガキイムシ殺虫効果 福原一成(千葉県農林総研森林)
動物2	山形県産カシノナガキイムシにおける発育期間と温度との関係 北島博(森林総研)
動物3	マテバシイの枯死木と穿入生存木から発生するカシノナガキイムシ 衣浦晴生・北島博(森林総研)
動物4	クビアカツヤカミキリ成虫の脱出阻止に向けた土壌埋め込み試験 松本剛史・滝久智(森林総研)
動物5	赤谷プロジェクトにおけるセンサーカメラによる哺乳類の長期モニタリング調査 伊藤彰伸(関東森林管理局)・中野恵(日本自然保護協会)
動物6	房総半島のシカ・キョン生息地域における植生保護柵の効果 岩澤勝巳・福島成樹(千葉県農林総研森林)・幸由利香(千葉県北部林事印旛)・小森谷あかね(千葉県農林総研森林)
動物7	東京近辺に生息するニホンジカの遺伝特性の評価 松永俊一(明治大)・奥田裕斗(明治大)・久保田将之(東京農総研)・新井一司(東京農総研)・溝口康(明治大)
動物8	東京都多摩地域の再造林地に出没する野生動物の実態 新井一司・久保田将之(東京農総研)

林産	
林産1	極積み状態の固有振動数から推定したスギ心持ち平角の縦振動ヤング係数 佐藤 渉・岩崎 昌一(新潟県森林研)
林産2	カラマツラミナとCLT強度について 小澤 雅之・伊原 隆伸・櫻田 尚人(山梨県森林研)
林産3	街路のつる性植物における酵素糖化 瀬山 智子・矢野 薫穂(東京農大)
特用林産	
特用1	山林に植栽したウルシ林における林床植生の生育状況とウルシ植栽木への影響 小林 久泰・倉持 眞寿美・高田 守男(茨城県林技セ)
特用2	宿主幼虫を利用したキノコ害虫の土着天敵スクリーニング手法の開発 向井 裕美・北島 博・末吉 昌宏(森林総研)・渡辺 恭平(神奈川県立生命の星・地球博物館)
特用3	ラオス農山村における未利用樹木を活用した<i>Lentinus squarrosulus</i>の原木栽培の可能性 木村 健一郎(国際農研)・ザヤラス シンコン(ラオス林業研究センター)・原口 雅人(埼玉県中央部森林組合)
特用4	アラゲキクラゲの短木断面栽培試験における発生時期 中村 弘一・山口 晶子・市村 よし子(茨城県林技セ)
特用5	福島第一原子力発電所事故5～7年後に千葉県内で伏せこんだほだ木におけるセシウム137濃度の推移 小森 谷あかね(千葉県農林総研森林)・宇川 裕一(千葉県森林課)・岩澤 勝巳(千葉県農林総研森林)
特用6	原木シイタケ栽培におけるコナラ以外の樹種を原木として用いた場合の放射性セシウム濃度の移行係数と収穫回数ごとの子実体の放射性セシウム濃度の推移 関根 直樹・小林 久泰(茨城県林技セ)・金田 一美有(茨城県県北農林事務所)・山口 晶子(茨城県県央農林事務所)

□事務局より連絡

関東森林学会 第12期（2022年度）第1回幹事会 議事録

【日時】2022年6月21日（火）13:00～14:45

【場所】zoomによるオンライン会議

【出席者】（順不同、敬称略）

（都道府県幹事）坂庭（群馬）、中村（埼玉）、福原（千葉）、新井（東京）、塚原（新潟）、長池（山梨）

（国機関幹事）久保田（森林総研、つくば市）、田村（森林総研、林木育種）

（大学幹事）有賀（宇都宮大）、白木（東京農工大）、古井戸（東京大）、小坂（日大）、佐藤（東京農業大）

（学会事務局）逢沢（編集、宇都宮大）、田中恵（会計、東京農業大）、田中良明（監査、森林総研）、本田（総務、東京農業大）

【欠席者】齋藤（神奈川）、高橋（栃木）、菅井（茨城）（順不同、敬称略）

【書記】本田（総務、東京農業大）

【事前配布資料】

資料－0_関東森林学会_第12期_第1回幹事会_議事次第

資料－1_（会長）

資料－2_（会計担当幹事：決算）

資料－3_（会計担当幹事：予算）

資料－4_（会長：今後の運営体制）

資料－5_（副会長：表彰）

資料－6_（編集委員長：論文集）

資料－6_追加分（編集委員長：論文集執筆要領ほか改訂）

資料－7_（会長：EBSCO）

【議事】

1. 第12期（2022年度）役員体制等について（会長、資料－1）

- ・行事担当幹事は、開催都県の「東京都 新井一司 幹事」とする。
- ・その他の役員は留任とする。

【審議結果】提案のとおり、異議なく了承された。

2. 第11期（2021年度）会計決算報告について（会計担当理事、資料－2）

- ・資料中、予算額合計の訂正が報告された。（誤）5,501,063円→（正）5,758,944円
- ・新潟大会の会計収支について、第11期行事担当理事の塚原幹事（新潟県）から報告があった。
- ・田中監査より、諸事適正に執行されている旨、会計監査報告がなされた。

【審議結果】提案のとおり、異議なく了承された。

3. 第12期（2022年度）予算計画（案）について（会計担当理事，資料－3）

資料説明の後，以下の補足および意見があった。

- ・（佐藤会長）「予算額＞支出額」の傾向は，昨今の学会大会が「リモート開催」であることも影響している。
- ・（佐藤会長）Web 管理や学生の雇用など，学会運営に必要な支出は，予備費等から適宜支出されたい。
- ・（古井戸幹事）学会論文の電子化と公開に要する経費の予算化を考える時期ではないか。
→（佐藤会長）今期は必要に応じて予備費で対応する。来期以降，予算化を検討する。
- ・（白木 HP 担当理事）昨今，予備費が増大化の傾向にあるが，今後，学会運営に必要な支出の計上や，学会費の減額等により，「予備費の蓄積を減らす努力」を考える必要がある。
- ・（逢沢編集委員長）幹事会としての旅費交通費の計上は必要か？
→（佐藤会長）最近の幹事会は「zoom 開催」が多いが，現地開催の学会総会などの場合には，旅費交通費の支出が必要となる場合がある。

【審議結果】上記意見等は議事録に記載して残し，予算計画（案）自体は提案のとおり，異議なく了承された。

4. 2022年度学会大会（於：東京都）開催方針について（会長，行事担当理事，配布資料なし）

- ・昨年度の新潟大会：参加者 170 名，発表件数 75 件
- ・今年度の開催日程：10 月 25 日（火）
- ・今年度の開催方法：
会場：東京都農林総合研究センター
総会：13:15～13:45 の時間帯で開催する。
講演：東京農大 宮林茂幸 先生「森林林業山村のサービス産業化（仮題）」
（講演は「zoom による視聴」を併用する。）
学会発表：昨年度と同様のリモート開催とする。
- ・大会直前の「第2回幹事会」：10 月 18 日（火）13:00 開始（zoom 開催）とする。

【審議結果】提案のとおり，異議なく了承された。

5. 2023年度以降の体制（会長，副会長，総務・会計，編集，行事）について（会長，資料－1，4）

【審議結果】提案のとおり，異議なく了承された。

6. 2022年度表彰について（副会長，資料－5）

【審議結果】提案のとおり，異議なく了承された。

7. 学会刊行物について

- ・学会ニュースに関する事項（総務担当理事，配布資料なし）

- (1) 学会ニュースは「1号・2号合併号」とし、学会大会プログラムの公表に合わせて10月上旬に会員の手元に届くよう発行する。
- (2) 学会大会の案内と大会申込みフォームは、8月中旬に学会HPに掲載する。

【審議結果】(1)、(2)ともに、提案のとおり、異議なく了承された。

・論文集「関東森林研究」に関する事項（編集委員会委員長，資料－6および資料－6_追加分）

- (1) 編集委員長より「資料－6_追加分」について説明があり，編集委員会の決定事項として「論文集執筆要領ほか改訂」を次回第74巻の編集から適用する旨，報告があった。
- (2) 編集委員長より「資料－6」について報告があった。

→（小坂幹事）学会誌としての体裁上，1年間で複数号（第1号および第2号）の発刊が必要ではないか？

→（佐藤会長）**これまでの経緯も含めて，今後確認する。**

8. その他

・EBSCOへの学会誌登録について（会長，資料－1，7）

→（佐藤会長）向こう3年間の試用を提案する。

→（白木幹事）著作権などはどうなっているのか？

→（佐藤会長）**契約書等を精査する。本件，次回審議を第2回幹事会の時期を目途に「継続審議」とする。**

・「関東森林研究」掲載論文の学会HP上での公開について

→最新巻（第73巻）以前の論文については，白木HP担当理事により，アップロード作業を順次進める。

→上記作業にかかる費用については，経費として予備費からの支出を認める。

以上

第 11 期関東森林学会運営収支決算報告書
(令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日)

収入の部

	費目	第 11 期予算	決算	差額	摘要
1	前年度繰越金	4,006,944	4,006,944	0	
2	会費	920,000	874,810	-45,190	行政機関会費¥30,000-を含む
3	賛助会費	0	0	0	
4	論文集売却	30,000	60,000	30,000	
5	別刷り等	800,000	570,000	-230,000	関東森林研究 72(1)、72(2)
6	雑収入	2,000	38	-1,962	利息(常陽銀行、三菱 UFJ 銀行)
7	協賛金	0	100,000	100,000	日本森林学会、日本森林技術協会
8	返還金	0	0	0	
	合計	5,758,944	5,611,792	-147,152	

支出の部

	費目	第 11 期予算	決算	差額	摘要
1	ニュース印刷	150,000	77,000	-73,000	ニュースレター21,22 (合併号)
2	論文集	700,000	151,360	-548,640	関東森林研究 72(2)
3	大会運営	300,000	121,785	-178,215	第 11 回関東森林学会 オンラインで開催
4	編集費	30,000	0	-30,000	
5	旅費幹事会	250,000	0	-250,000	
6	会議費	20,000	0	-20,000	
7	通信費	50,000	7,278	-42,722	切手等
8	消耗品	50,000	494	-49,506	文具等
9	表彰費	100,000	40,720	-59,280	表彰状と図書カード
10	手数料	10,000	2,838	-7,162	振込手数料(常陽銀行、三菱 UFJ 銀行)
11	謝金	10,000	0	-10,000	
12	HP 管理費	50,000	18,440	-31,560	学会サーバー代 (2 年分)
13	予備費	4,038,944		-4,038,944	
14	繰越金		5,191,877	5,191,877	
15	合計	5,758,944	5,611,792	-147,152	

現財産

総収入	総支出	差額
5,611,792	419,915	5,191,877

財産内訳

三菱 UFJ 銀行	5,185,980
現金	5,897
合計	5,191,877

上記の通り学会運営の収支決算を報告いたします。
令和 4 年 6 月 14 日 事務局 (会計担当理事)

田中 恵



監査の結果、上記の通り相違ありません。
令和 4 年 6 月 24 日 監査

田中 良明



第 12 期学会運営予算案

第 12 期（令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日）

収入の部

	費目	第 11 期予算	第 12 期予算	差額	摘要
1	前年度繰越金	4,006,944	5,191,877	1,184,933	
2	会費	920,000	920,000	0	行政機関会費¥30,000 を含む
3	賛助会費	0	0	0	
4	論文集売却	30,000	30,000	0	
5	別刷り等	800,000	800,000	0	
6	雑収入	2,000	2,000	0	利息、バックナンバー販売
7	返還金	0	0	0	
	合計	5,758,944	6,943,877	1,184,933	

支出の部

	費目	第 11 期予算	第 12 期予算	差額	摘要
1	ニュース印刷	150,000	150,000	0	
2	論文集	700,000	700,000	0	関東森林研究 73
3	大会運営	300,000	300,000	0	第 12 回関東森林学会大会
4	編集費	30,000	30,000	0	関東森林研究 73
5	旅費幹事会	250,000	250,000	0	第 12 期幹事会
6	会議費	20,000	20,000	0	第 12 期幹事会
7	通信費	50,000	50,000	0	印刷物発送等
8	消耗品	50,000	50,000	0	
9	表彰費	100,000	100,000	0	第 12 期表彰分
10	手数料	10,000	10,000	0	
11	謝金	10,000	10,000	0	
12	HP 管理費	50,000	50,000	0	
13	予備費	4,038,944	5,223,877	1,184,933	
	合計	5,758,944	6,943,877	1,184,933	

関東森林学会第 12 期事務局

学会長：佐藤孝吉（東京農業大学）

学会副会長：有賀一広（宇都宮大学）

総務担当理事：本田尚正（東京農業大学）

総務担当理事補佐（HP 担当） 白木克繁（東京農工大学）

会計担当理事：田中 恵（東京農業大学）

行事担当理事：新井一司（東京都農林総合研究センター）

編集担当理事：逢沢峰昭（宇都宮大学）

監査：田中良明（森林総合研究所）

連絡先 〒156-8502

東京都世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学地域環境科学部（佐藤孝吉）

TEL：03-5477-2276 E-mail：satota [あっと] nodai.ac.jp

振込口座 三菱 UFJ 銀行 経堂支店（店番号 091）

普通預金口座 0747745

口座名義 関東森林学会（カントウシンリンガツカイ）

入退会の連絡は、会計担当の田中恵（m4tanaka [あっと] nodai.ac.jp）にお願いします。